

宿縁

五月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番二十九号
浄土真宗
本願寺派
中原寺
TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

称名念仏 すべきものなり



仏教をやさしい言葉で表現し、数々の著書を出され幅広い講演活動で知られた仏教思想家「ひろさちや」さんが亡くなりました。先生は平成元年十月に当寺が始めた「文化講演会」の第一回講師で「なにゆえ 今 仏教」と題してお話いただきました。この講題は今日まで続く文化講演会の総合テーマとさせていただいております。難解なものとなるべくやさしい言葉に置き換えることはなかなか難しいことです。仏教思想家のひろさちやさんは、信仰でいう

「祈り」には二つの種類があることをうまく表現していました。『宗教心というと、今の日本人はすぐにご利益を信仰と思ひ浮かべますが、神様にあれこれ願ひ事をするのは宗教ではありません。ああしてください、こうしてくださいとまるで請求書をつきつけるような祈りを私は「請求書の祈り」といいますが、本物の宗教心というのは、「私はこれだけのものをいただきました、どうもありがとうございます。』と。』と。また渡辺和子さん(キリスト教カトリック修道女でノートルダム清心学園元理事長)も『どんな時でも人は笑顔になれる』の遺作で、「請求書の祈りと領収書の祈り」という表現をされています。とかく私たちは日常、思うこと、行うことに間違った観念を抱いているものですが、そうした人々にはわかり易い譬えが大事だと思ひます。しかしそれをするのがむずかしいのですが…。さて浄土真宗の教え、親鸞聖人はどう私たちにその教えをお示しくださったかを味わってみましょう。その要は、「つつしんで、浄土真宗すなわち浄土真実の仏法をうかがうと、阿弥陀如来より二種のすがたが廻向(さし向けられる)」されることによって救いが完成するのである。一

つには、私たちが浄土に往生し仏に成るといふ往相(おうそう)と、直ちに迷いの世界に還つて生きとし生けるものすべてを救うといふ還相(げんそう)の二つのはたらきをいただくのである。』ということ。そして如来が完成された功德は「南無阿弥陀仏」という名としてすべてのものに届けられているというのです。その証拠は私の口に称えるお念仏です。阿弥陀如来のすべてを救ひ取るというはたらきは人間には形にしなければ届かないので「南無阿弥陀仏」という六字の言葉になつて届けられたのです。ただ称名念仏一つが私たちの救われる道と教えてくださった中国宋代の僧、元照(がんにしょう)というお坊様は、『阿弥陀仏は「名」となっている仏だということ明らかにして、その「名」をもって人々と交わる。だから、その「名」を耳に聞き、あるいは口に声を出して称えらるると、阿弥陀仏の尊い功德が私たちの心にまどめて入ってくる。そして、久しく仏と成る種となり、すみやかに知られざる過去から積み重ねてきた「疑いの罪」が除かれ、さとりを得る』と、述べています。今月から始まったNHKテレ『歎異抄にであうー無宗教からの扉ー』の講師阿満利磨師は、『この一文は、「南無阿弥陀仏」と称えることがなぜ不可欠なのか、を明確に教えてくれているのではないか。私はこの一文と出遇ったことで、称名への疑いが一切なくなつた。そして、「南無阿弥陀仏」と称えることが仏道そのものであり、その道は、私を「仏」ならしめるまで続いていると信じて疑わな

生にもひどい動揺もない。私の心をひるがえしたのは、この一文との出遇いであつたといつても過言ではない。』と心境を吐露されていますが、まさに共感する言葉です。現代はすべからず理屈っぽく考えるようになりましたが、仏教は理屈ではなく体得です。行動するなかに体ごとくなづくのです。さとりに、つまり仏に成るといふことは「還相の利益」を得るといふこと。これはどういふことでしょうか。還相とは「利他教化(りたきょうけ)」、つまり仏に成るといふことは直ちにこの迷いの世界に還つてきてあらゆる衆生を救うはたらきに入るといふことです。終点が始発点であるということ。電車は終点についてからそのまま始発となつて客を乗せて発車しますね。このように仏のはたらきは衆生を絶えず導きどうして止むことがありません。そして還相のはたらきは様々ですが形をとつて人々を導くといふのです。「往相」もままならない私たちが「還相」活動など、思いもよらないと思ひのは当然です。しかし今私が念仏を称えるといふことは、称える心に仏さまのことを拝み、仏さまのことをほめたたえる気持ちもでてくる、人さまのためのことを思う回向の心もでてくる、それらは如来さまがくだされたお慈悲のはたらきだと受け取れば、そのお心を用いて終生お念仏を称えて生きることが肝要なのだと思ひるのでないでしょうか。親鸞聖人は、とことん仏さまとは何か、仏の慈悲とは何かをこの私に示されたのです。また、蓮如上人は「ご恩報謝と存じ称名念仏すべきものなり」と教えていただきました。

【寺灯雑記】

○子ども花まつり開催

4/3

今から約二六〇〇年前の四月八日にお生まれになったと伝わる、お釈迦さまのお誕生日「花まつり」を子どもたちとお祝いしました。

この日は三〇人ほどのご家族が参加ください、本堂でのお経のお勤めや、聞法会館スクリンで仏教説話のビデオを見たりと、子どもたちにとってはお釈迦さまのみ教えに触れる貴重なご縁となりました。

また、アンブレラメーカー（傘につけるキーホルダー）作りでは、それぞれ思い思いのデザインで、世界に一つだけの一品を作り上げました。

○子育てサロン「パンダっ子」再開！

4/11

コロナウイルスの感染拡大につき、長らく休止していた子育てサロン「パンダっ子」が4月より再開いたしました。

この日は再開の通知がいきわたらず、参加者は少なめでしたが、裏山で採れたたけのごはんの昼食は大好評でした。今後は、毎月第二日曜日（一月と八月は休み）の午前十一時〜午後二時まで開催いたします。お子さまの遊び場に困っている親子、子育て相談をしたい方、お気軽にご参加下さい。

○入門式に六家族が受式

4/17

今年度の入門式には六家族（うち一組は都合により当日午前中に受式）が受式され、新たに

に中原寺とのご縁を結ばれました。

本堂のご仏前にて、浄土真宗の門徒としての自覚を新たに、念仏申す人生を歩むことを奉告され、住職より式章や経本が授与されました。

引き続きの常例法座では、今年も熊原博文師にお取り継ぎいただき、阿弥陀さまのお救いや念仏者としての歩みをお話しくさきり、入門式受式者のかたも熱心に聴聞されていきました。

左記の方々が新しく御同朋のお仲間になりました。これからよろしくお願いいたします。

- *児島佳守 〓ご家族様
- *大門實子 〓ご家族様
- *武田昭治 〓ご家族様
- *春田桂子 〓ご家族様
- *松永勝重 〓ご家族様
- *吉野英 〓ご家族様

○門信徒役員会が開かれる

4/17

本来二月に開催予定であった門信徒役員会が開かれ、福島道宏新会長のもと予算案や今年度の諸行事について話し合われました。

今年度より任期改選（任期3年）となり、新たに井上好子さん、靱井善美さん、藤野原龍樹さんが理事に加わっていただくこととなりました。

ウィズコロナ時代の到来により、寺の行事なども変革期にあるなか、現代のニーズに合った寺の活動をもに進めていきたいと思えます。

○ウクライナ人道支援金について

前号にて「中原寺ふれあい募金」より、浄土真宗本願寺派たすけあい運動募金「ウクライナ緊急支援募金」に送金したことを報告いたしました。引き続き中原寺では支援金を受け付けております。ご協力のほどお願い致します。

*「中原寺ふれあい募金宛」

（郵便振替口座番号00110-6-740059）

【法要・法座のご案内】

☆宗祖降誕会・永代経法要式次第

・五月二十二日（日）午後一時より

（時間が変更となりました）

*親鸞聖人降誕会法要

浄土真宗の宗祖・親鸞聖人のご誕生をお祝いする法要。親鸞聖人がなければ、私が浄土真宗のみ教えにであうこともなかったでしょう。ご誕生をお祝いするとともに、み教えにであえた喜びを感じる法要が降誕会です。

献灯献花

おつとめ「さんだんのうた」

*永代経法要

先に浄土に往生され仏となられた方の在りし日の面影をなつかしみ、また、阿弥陀さまの本願の救いにであえたことを喜ばせていただく法要。

おつとめ・讚仏偈

法話・ケネス田中師

午後三時頃 終了予定

○お仏具磨き・清掃奉仕

五月七日（土） 午前十時

*動きやすい服装でご参加ください。

○婦人会法座

五月七日（土） 午後一時

おつとめ・正信偈

趣味講座：今回は折り紙を使って、ミニトートバック作りに挑戦します。

作品例



○子育てサロン「パンダっ子」

五月九日（月） 午前十一時〜午後二時

*途中入場、途中退出可

*事前申込不要、参加費無料

*簡単な昼食もご用意しております。

○教行信証を学ぶ（証巻）

五月二十八日（土） 午後二時

講師：前任職

【五月の掲示板のことば】

「バブル」とは

「泡」という意味。

欲望からつつしみへ

向かう道が仏道